
Fly with me

小島 榆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fly with me

【Nコード】

N6124V

【作者名】

小島 榆

【あらすじ】

「お願いがあるんだ。おれに乗ってくれない？」酔っ払ったせいで、一生の仕事が決まってしまったひとの話。

世間は不景気で、声楽家の卵を雇ってくれそうなバイト先はなかなかない。新しい軍用機開発のニュースを聞きながら思ったのは「またオーデイション落ちた（涙）」ということだった。こんなときは自棄酒だ。

ふだんは控えているアルコールをかつくらい、酔っ払っていい気分を歌って夜が明けた。

気がついたら床にビールの空き缶が転がっていた。明け方の窓の外では鳥が鳴いて、向かいのソファでは昨日いっしょに呑んだとおぼしき相手が横になってこっちを見ている。

「そんなに驚いた顔するなよ。泊まって言って言ったのはおまえだろ」

にやにやしながら言われた。

スイマセン、全然記憶にありません。しかも客をソファに寝かせて自分はいつものベッドだよ！ っていうか、相手、知らない人だよ！

とりあえず自分も相手も服着てるし、なにもなかったよね、と誰にもなく問い詰めたい気分です。

口をパクパクさせていると男は起き上がって伸びをした。くしゃくしゃのシャツとくしゃくしゃの髪。妙に勝手知ったる様子でキッチンに向かう。

「朝飯食いながら話そうか。なに食べる？」

なにが冷蔵庫に入っているかも思い出せない。動揺しているのが自分でもわかる。

ああ、でもバナナとパンケーキが食べたい。以前、なにかの雑誌に載っていた世界一の朝食風なやつ。バナナの上にこんもりとパンケーキをのっけるの。写真ではパンケーキの上にメープルシロップ

がかかっていたけど、できたらバターだけで。喉のためにたまに蜂蜜をなめているとはいえ、基本的に甘いのは苦手だ。

そんなことを考えていたら、キッチンから小麦粉が焼ける匂いが漂ってきた。

「どうぞ」

「どうぞ」

目の前に素敵なおパンケーキが置かれた。パンケーキの下にのぞいているのはオレンジだ。

「バナナ切れてたからオレンジにしてみた。あ、バターのせでいいよな」

もちろんですとも。うーん、オレンジもパンケーキにあうねえ。

食欲に負けて満面の笑みを浮かべる私にコーヒーを差し出すと、男はおもむろに話し始めた。

ひとは酔っ払うといろんなことをする。

いつのまにか自宅に戻っているのに帰った記憶が全然ないとか、電車を乗り過ごして隣の果てまで連れて行かれたとか。

音楽学校の先生は自宅の庭で飼い犬に話しかけていたらパトロール中の警察官に不審者だと思われたらしいし、作曲学科の知り合いはコンタクトを落としたと騒いだ拳銃、目の中にコンタクトが入っていたそうだ。サザエさんのネタか。

「おれは電車乗り過ごしたタイプに近くつてさ。いつのまにか結構な距離を移動してる。今回はわりと短距離だったけど、前はケーンハウンまで行ってて、すっげー寒かった」

ケーンハウン？

小首をかしげたら、ケーンハウンはコペンハーゲンの現地語の呼び方だと説明された。現地で地名を聞いて、地元に戻ってから読み方を頼りに自分が行っていた場所を調べたという。道理でそれっぽい発音だ。ケにアクセントがくる。

しかしなぜコペンハーゲンまで行っているのですか、この人は。コペンハーゲンといえばデンマーク。アンデルセンの国ですよ？そこはもう国外でしょ。電車の終点レベルじゃないでしょ。パスポートはどうした。

「知ってる？ コペンハーゲンにクリスマスのあるところに行くとな人中八人は帽子かぶってるの。風が強かったり寒かったりで、北国だと帽子は実用なんだよな。で、おれが酔っ払うと移動してるってのも実用なんだ。無意識のうちに移動して移動して、おれを操縦できる人間を探してる」

言葉を切ると、男はにっこり笑って言った。

「お願いがあるんだ。おれに乗ってくれない？」

「え　　！？」

乗るって、乗るって、どういう意味ですか　　！

真っ赤になって喉から放たれた大声は、きれいな一直線のラの音だったと思う。

男の姿をした新型軍用航空機、存在自体が軍事機密のコードネーム・鴉と声楽家の卵である私との付き合いはこんな始まり。

いつのまにか成り行きで鴉専属操縦士として軍属になり、地獄の特訓を受ける羽目になったのだが、それはまた別の話である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6124v/>

Fly with me

2011年10月9日08時12分発行